

「 T・A・I・W・A 」 まなざしの共有

指導者 青木 孝浩（宇都宮立一条中学校）
選択美術 2年生 21名
3年生 11名

1 指導目標

- (1) 作品に対する自分の見方や感じ方を広げたり深めたりするために、美術館の作品を意欲的に鑑賞できる。 (関心・意欲・態度)
- (2) 本物の作品を見ることで自分の感じたこと、気づいたことなどを具体的にまとめて相手に伝えることができる。また、意見を聞いたりすることで作品の見方を広めたり、深めたりすることで、作者の意図を考えながら鑑賞することができる。 (鑑賞の能力)

2 題材について

(1) 題材設定の理由

昨年度、関東甲信越静ブロック造形教育研究会において「夢あふれる空間」の研究テーマのもと、美術館との連携や鑑賞プログラムの活用まで含めた鑑賞学習のあり方について研究を進めてきた。美術館での鑑賞方法プログラムについては、先の関プロでの公開授業や提案によって示され、多くの工夫が見られた。しかし、美術館を利用するという点について、授業の時間内で行くことの困難さや、連携の難しさなど、課題が出たことも事実である。

関プロの研究をとおして、対話型鑑賞について学ぶことができた。美術館に馴染みのない生徒もいる中で、対話型鑑賞法を用いることは、美術作品により興味を持ち、自分の考えや見方を広げることにも有効だと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

市の中心部に位置する一条中学校では、夏休みに美術館レポートを課題としているため、美術館にはほとんどの生徒が行っている。しかし、課題では授業の形態とは異なるため、じっくり鑑賞するには至っておらず、日常的に本物の作品と向き合う機会は多いとは言えない。鑑賞の授業では様々な鑑賞を取り入れているが、生徒は反応がよく、一生懸命作品を見ようとする気持ちは見られる。基本的な姿勢が出来つつある中で、美術館での対話型鑑賞は効果があると思われる。

(3) 題材で育てる力

- ・作品のよさや工夫したところを感じ取とる力。
- ・友だちの意見を聞きながら、自分の考えを再構築する力。

3 指導計画（4時間）

- | | | |
|--------------|------------------|---------|
| (1) 事前指導 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1時間 |
| (2) 美術館での鑑賞会 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1時間（本時） |
| (2) 鑑賞会のまとめ | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2時間 |

4 本時の指導

- (1) 目 標 作品を鑑賞し自分の感じたこと、気づいたことなどを具体的にまとめて相手に伝えることができる。また、意見を聞いたりすることで作品の見方を広めたり、深めることができ、作者の意図にせまることができる。 (鑑賞の能力)
- (2) 準 備 ワークシート、バインダー、鉛筆、腕時計

5．選択作品について（選択した理由について）

岩崎 鐸 『母の誕生日』

描いてあるモチーフをよく観察していくと、いくつもの不思議な点が発見できる。テーブルの上に置かれたものはどう見ても小さく、ばらばら。誕生日というのに、あまり嬉しそうでない母と思われる人物の表情，見れば見るほど人間関係まで疑わしくなる作品である。生徒の発想や視点が広がりやすいと思い，この作品を選んでみた。

松本俊介 『街』

一つの画面の中に，多方向的な建物や時間の流れが描かれている興味深い作品である。シンプルな『街』というタイトルや同一色調による表現など，さまざまなイメージを連想させる作品であり，生徒に多くのことを考えさせることができる作品だと考えた。また，作者が聴覚障害を持った画家であることは，難聴学級との交流がある本校生徒にとっては別の視点で考えるきっかけを与えるものである。

『iichiko のポスター』

本校の鑑賞授業の中で2学年の最初に学年の導入も兼ねて，広告デザインの鑑賞を行っている。その応用としてポスターの鑑賞を取り入れては，と考えこの作品を選んだ。ポスターに見られるメッセージの工夫や伝達のデザインの力について考えさせたい。

